

令和2年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月20日実施)	総合評価（3月30日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①新学習指導要領を基盤にクリエイティブスクールの特性を融合した新しい教育課程を確立する。 ②生徒が学ぶ楽しさを実感できるような授業方法を確立する。	①改良点を洗い出し、令和3年度より新教育課程を意識した見直しを行う。 ②生徒が「わかる」という授業方法を研究授業を重ねながら大和東スタンダードを構築する。	①教育課程検討WGを中心に検討する。 ②研究会を立ち上げ、生徒がわかる授業について検討及び共有する。	①令和3年度の教育課程ができたか。新学習指導要領に則った教育課程表ができたか。 ②共有した内容を授業で実践したか。また、実践した内容が生徒に反映されたか。	①令和3年度教育課程は完成した。令和4年度実施の教育課程表も併せて完成した。 ②校内の情報共有会を2回及び大学の教員を迎えての研修会を実施した。ICTを活用できる教員が100%になった。	①移行期の持ち時間のバランスや科目の重なりが今後の課題となる。また、学校設定科目の詳細について検討を要する。 ②共有した内容を多くの教員が実践しやすい手立ての開発が急務である。ICT機器のさらなる充実が求められる。	②小中学校は一人一台タブレットを持って授業を受けていることを踏まえた教育を展開する必要がある。 ・「わかる授業」として様々な手立てを行っていたことは確認できたが、生徒への確認は「わかったか」を問うよりも「わかった瞬間があったか。」を問うという方法のほうが授業改善に生かせる。	①令和4年度教育課程はほぼ完成した。総合的な探究の時間などの内容を精査する必要がある。 ②全HR教室にモニター等を配置し、より効果的な授業を行える環境を整え、教員研修も実施した。ICT活用と黒板の併用や、黒板の一部を使う方法も効果的であるなど様々な工夫が求められる。 ②今年度の研修会でのアンケートから、次年度の授業改善のテーマが見えてきた。	①教育課程完成のためのプロジェクトチームをつくり、探究及び学校設定科目の内容を決定する。 ②次年度の授業改善のテーマを「授業のユニバーサルデザイン化」や「生徒が見通しを持って受講できる授業」などにして、より「わかる授業」をすべての教員ができるよう研究を進める。
2 生徒指導・支援	組織的な支援体制により、生徒一人ひとりが落ち着いて学習に向き合える環境を整える。	・全職員が共通認識の中で、生徒に基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・コア会議・ケース会議及び生徒支援会議等を活用した教育相談体制によりチーム支援に取り組む。	・生徒、職員及び保護者を対象とした講演会や研修会、またボーダーカフェをさらに活性化させる。 ・生徒の個別面談の回数を増やしたりアンケートを活用して、生徒のかかえている課題を早期に発見する。	・家庭への働きかけも含め、全職員が共通認識を持つことで生徒の基本的な生活習慣と規範意識の向上が見られたか。 ・生徒の困り感を早期に発見し解決できたか。	・SSWによる教育相談研修を実施し、職員のスキルの向上と課題の共有を図った。 ・個別相談を2回に増やし生徒が抱える課題を早期発見し教育相談に延べ224件つなげることができた。	・福祉につながる方策について職員対象の研修を行い、障害に対する理解を深める。 ・引き続き、生徒が抱える課題の情報共有を図る。	・教育相談で様々な困り感が見えてくる。ボーダーカフェの位置づけが大きい。丁寧な教育相談が早期解決につながる。 ・スクールメンターの仕組みを壊してはいけない。この協議会としてもスクールメンターの配置を強く県に要請する。	・週1回のコア会議で生徒が抱える問題を共有し、解決の方策の検討を重ねた。コア会議からケース会議につなげて学校生活が改善された生徒も出るなど、本校の取組が効果的であることが実証された。 ・すべての教員がSC及びSSWの効果を理解し、生徒を効果的につなげることができることが課題である。	・SC及びSSWを講師として、教育相談研修会を実施し、教員のさらなる理解を深める。
3 進路指導・支援	組織を機能的かつ急進的に動かすとともに、地域や外部機関との協働により生徒の自己実現をサポートし、自立できる力を育てる。	新しい学習システムを導入し、活用方法を追求するとともに、生徒のキャリア支援を図る。	スタディサプリを導入し、生徒の主体的な活動をめざす。	スタディサプリを導入することで、学習面での理解があがったか。生徒の探究活動など主体的な活動ができたか。	・今年度より1年生がスタディサプリを導入し、朝の時間に90%超の生徒が学習や探究に活用している。放課後の配信でも60%超の生徒が活用している。	・現在は配信された課題を中心に取り組んでいるが、自ら設定した課題に取り組んでいくような仕組みの構築が課題である。	・社会体験は学校と受け入れ団体との差異がなくなればより良いものになる。 ・クリエイティブスクール後の就職者の推移データを分析すれば次の可能性がみられるのではないかと。	・スタディサプリの利用率は全国と比較しても高く、より効果的な使い方について研究を継続することが重要である。 ・コロナで実施できなかった社会体験を3年度に実施するが、社会が求める人物像を生徒にわからせることが課題である。	・学習に対する意欲を向上させるために、授業の中で定期的にスタディサプリの確認テストを配信・解答させる。 ・2年生で実施する社会体験では、より職業観・勤労観の構築につながるよう大人との関わりを増やすべく協力企業との連携を図る。
4 地域等との協働	①保護者や地域との協働による開かれた学校づくりを確立する。 ②市との協働事業等に積極的に参加する。	①地域の中で本校生徒が主体的に防災に取り組む姿勢を確立する。 ②市との協働事業やボランティア等の参加回数を増やす。	①自治会、消防署及び近隣小学校と協働した防災訓練を実施する。 ②小学校、中学校だけでなく行政主催の行事にも積極的に生徒を参加させる。	①訓練を終えて生徒の参加人数が昨年より増えたか。また生徒の防災意識が高まったか。 ②参加回数並びに生徒及び主催者のアンケート評価。	・コロナの影響で地域との連携はもたず、校内で生徒のみの参加で防災に関する訓練を4回実施した。防災意識が高くなったと回答した生徒は100%だった。	・地域主催の防災活動への参加や、地域を巻き込んだ本校の防災行事を復活させ、これからも地域と協働する防災協力関係を再構築していく。	・コロナで関わる機会が減っているが、地域とオンライン訪問を企画して繋がりをつくるのもよいのではないかと。 ・本校の防災教育は進んでいる。さらなる進化を期待する。	・コロナ禍でも、本校の特色である防災教育は大和市や消防の協力も得ながら、地域防災の担い手の育成という視点からも様々な取組ができた。地域の防災訓練にも積極的に参加することが3年度の課題である。	・自治会や大和市主催の防災訓練に教員・生徒を派遣し、災害時の高校生の役割を理解させるとともに、その成果を本校生徒に発信する仕組みを構築する。
5 学校管理 学校運営	①教育環境の整備と広報活動の充実に取り組み、開かれた学校づくりを進める。 ②安心・安全の学校づくりを基本に情報管理を徹底する等、事故不祥事ゼロとする。	①HP等で学校の教育活動や取組状況を発信する。 ②事故防止会議を通じて事故防止のポイントの周知を図る。	①学校説明会の参加者を増やす。 ②事故防止会議後、職員にアンケートを行う。	①学校説明会の参加者数とアンケートによる評価を活用する。 ②事故・不祥事をゼロにできたか。	①学校説明会の人数制限のため、参加者は減ったが、「わかった」と回答したのは92%だった。 ②事故・不祥事ゼロを達成した。職員アンケートでも具体的な例を用いての警鐘は有効であるとの意見が多かった。	①説明会の内容をネット配信し、本校の活動の見える化をさらに推進し、志願者に丁寧に対応する。 ②生徒への対応のしかたに問題が見られた。教員の個別指導も行き改善する。	①入学者選抜において定員には満たなかったがクリエイティブスクールにいった生徒が入学している。さらに積極的に広報活動を進めてほしい。 ・1年生に出身中学校訪問をさせるとよい。中学生は生徒の印象で志願先を決める。	①説明会、個別相談会及び動画配信などでクリエイティブスクールの理解を深めてもらうことができたが本校生徒が出身中学校に本校の魅力を発信できる仕組みをつくることなどが次の課題である。 ②令和3年度も事故・不祥事ゼロを達成するため、体験型の事故・不祥事防止研修会を開催する。	①1学期中に生徒を出身中学校へ訪問させ、中学3年生及びその担任に本校の魅力を伝え、本校を進路先として選択する中学生を増やす。